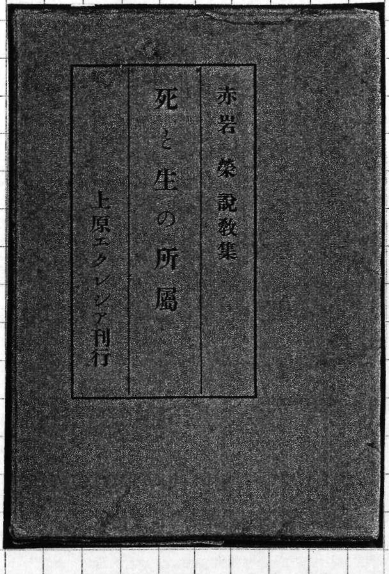
赤岩栄（あかいわさかえ）　牧師。明治三十六年四月六日愛媛縣生れ、昭和四十一年十一月二十八日没（一九〇三―六六）。昭和二年東京神學社卒。佐渡傳道所を經て、上原教會創立。六年『言（ことば）』發刊、二十四年日本共産黨入黨。のち既成教會批判、キリスト教脱出宣言。『赤岩栄著作集』全九巻別巻一（昭和四十五年―四十七年教文館）刊。

著書、説教集『死と生の所屬（一九二二―一九三四）』（昭和九年六月二十五日上原エクレシア）、『永遠者の探求』（昭和十二年九月一日新教出版社）、『哲學と文學』（合著・高桑純夫編、昭和二十三年十一月二十五日塙書房）、『神を探ねて』（昭和二十四年六月十五日弘文堂「アテネ文庫」）、『マルクシズムに對決するもの―批判と反批判』（合著・河野來吉編、昭和二十四年八月十五日勞働文化社）、『何を讀むべきか』（合著、昭和二十四年九月一日毎日新聞社編刊）、『私はイエスを裏切らない』（昭和二十四年十一月二十日北隆館）、『人間。この逆説的なるもの』（昭和二十四年十二月二十五日沙羅書房）、『生死の思索』（合著、昭和二十五年五月二十日池田書店「思索叢書」）、『良心ということ』（柳田謙十郎 松尾隆 椎名麟三合著、昭和二十八年十月二十日要書房）等。